

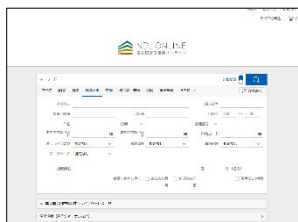
▶ 学術雑誌論文・一般雑誌記事を探すためのデータベース

日本で発行された学術雑誌論文、一般雑誌記事を探すためのデータベースを紹介します。専門分野によっては、もっと専門に特化したデータベースもありますが、ここでは比較的広い範囲をカバーしているデータベースを紹介します。

各専門分野に特化したデータベースについては下記も参照してください。

[\[図書館HPトップ > 資料を探す > データベース\]](#) : 「資料タイプ」が「論文情報」になっているものが該当する。

雑誌記事索引（国立国会図書館）[Free]



[\[https://ndlonline.ndl.go.jp/\]](https://ndlonline.ndl.go.jp/)

1. 「雑誌記事索引」とは

- 雑誌記事索引とは、国立国会図書館が収集・整理した国内刊行和文雑誌から、固有の論題をもつ記事をデータベース化したもの。

2. 採録されている雑誌と記事

- 学術誌、専門誌、機関誌、大学紀要を中心とし、全分野を網羅。ただし、戦後発行雑誌。
- 文芸誌、美術作品誌、スポーツ誌、音楽誌、児童誌などは採録されていない。
- 平成8年以降、一部週刊誌も採録
- 次のような記事は採録誌でも検索できない。原則2ページ以下の記事 / 情報・広報記事（会計報告、名簿・人事情報、組織変更のお知らせなど） / 漫画等娯楽性の強い記事 / 詩・短歌・俳句 / 各種試験問題、法令、判例などの解説などの付されていないデータ、資料類、原資料
- 採録雑誌総数（24,715誌（内、現在採録中 10,897誌、廃刊・採録中止 13,818誌））

NDL ONLINEの検索画面で、「詳細検索」をオンにし、「雑誌記事」タブを選択すると表示されます。

「雑誌記事索引」に収録されたデータは、CiNii Articlesからも検索することができます。



[\[https://ci.nii.ac.jp/\]](https://ci.nii.ac.jp/)

1. 「CiNii」とは

- CiNii (NII論文情報ナビゲータ[サイニイ]) は、論文や図書・雑誌などの学術情報を検索できるデータベース・サービス。
- 「Articles (日本の論文をさがす)」、「Books (大学図書館の本をさがす)」、「Dissertations (日本の博士論文をさがす)」から構成される。

2. 採録されている記事と特徴

- 学協会刊行物、大学の研究紀要、国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索できる。
- 2020年3月末現在検索できる論文数は 約2,200万件。データは週に1回更新される。
- 一部の論文本文は、北大では契約外のため利用することができない場合がある。

Web OYA-bunko 教育機関版(大宅壮一文庫雑誌記事索引) [北大契約データベース]



[\[Web OYA-bunko 教育機関版\]](#)

1. 「大宅壮一文庫雑誌記事索引」とは

- 評論家・大宅壮一氏が収集した雑誌記事 (主に大衆雑誌) を索引化した「大宅壮一文庫雑誌記事索引」をインターネットで検索できるデータベース。

2. 採録されている記事と特徴

- 国立国会図書館提供の「雑誌記事索引」が収録対象としていない、学術雑誌以外の雑誌、一般誌、週刊誌、大衆紙などからの記事の検索が可能。
- 週刊誌、総合月刊誌、女性誌、経済誌、スポーツ、科学、健康、芸能、芸術、文芸、出版・書評、生活情報、タウン情報など約1,200誌から、1988年以降の約350万件の記事索引を収録。また、1987年以前の索引データは「目録検索」として検索可能。

雑誌記事索引集成データベース (ざっさくプラス) [北大契約データベース]



[\[雑誌記事索引集成データベース\]](#)

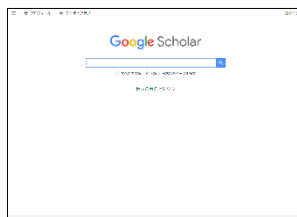
1. 雑誌記事索引集成データベース (ざっさくプラス) とは

- 『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』を基に作成されたデータベース。国立国会図書館提供の「雑誌記事索引」(1948年以降検索可能)も搭載。

2. 採録されている記事と特徴

- 「雑誌記事索引」では、地方で刊行された多くの雑誌類が収録対象となっていないが、本データベースでは全国誌から地方誌までの雑誌記事がシームレスに検索可能。
- 「雑誌記事索引」の中途採録誌に関しては、創刊号から採録開始までを独自に補っている。
- 「CiNii(NII論文情報ナビゲータ)」との横断検索も可能。

Google Scholar [Free]



[\[https://scholar.google.co.jp/\]](https://scholar.google.co.jp/)

- 学術資料に限定したGoogle。無料で利用可能。多くの学術資料を検索できるが収録範囲不明。
- 優れた検索機能に加え手軽に検索ができる。また、キーワードが本文にしかでてこない場合でもヒットする。
- シソーラスなどの機能がないため精密な検索が難しく、ノイズが多くなりがち。